

(様式)

令和3(2021)年度 いちご新品種実証展示ほ 成果情報

## 養液栽培における給液管理の違いが「とちあいか」の品質・障害果発生に及ぼす影響

### 要約

いちご新品種「とちあいか」について、12月中旬から1月末まで給液ECを1.2と高めて管理した結果、障害果の発生に差は見られなかった。また、糖度は、1月11日調査時で供試区9.7%、対照区9.0%、4月22日調査時で供試区7.7%、対照区7.0%であったが、それ以外は両区に差は見られなかった。

### ○ 展示のねらい

いちご新品種「とちあいか」の給液管理の違いによる品質、障害果の発生程度を比較し、現地適応性を実証する。

#### 1) 試験区概要

	12月中旬～1月末
供試区	給液EC 1.2
対照区	給液EC 1.0

#### 2) 栽培(飼養)概要

- (1) ハウス構造 南北単棟ハウス 高設栽培(カネコ ココベリーファーム<sup>®</sup>)
- (2) 定植 9月11日 株間:20cm、ベンチ幅30cm

### ○ 主な成果

障害果の発生割合は、供試区で1月25日調査時で16%、3月8日調査時で18%、対照区で1月11日調査時で18%発生したが、栽培期間を通して両区に差は見られなかった。

糖度は、1月11日調査時で供試区9.7、対照区9.0、4月22日調査時で供試区7.7、対照区7.0であったが、それ以外は両区に差は見られなかった。

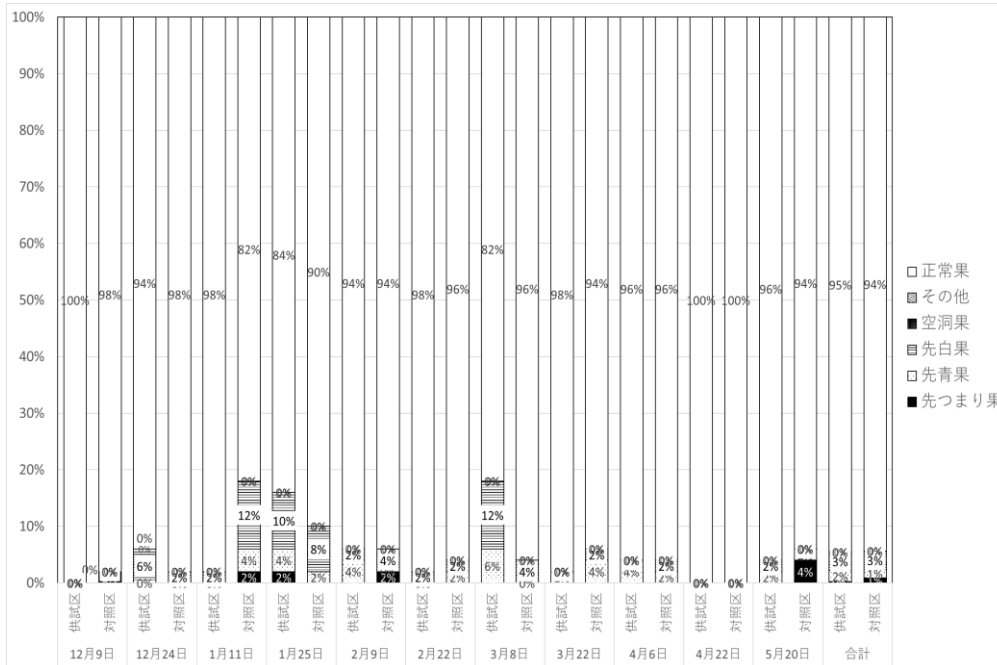


図1 障害果の発生割合

### ○ 今後の方向性

とちあいかの養液栽培において、厳寒期にEC1.2で管理することで糖度の向上が図られる。

実施機関：安足農業振興事務所経営普及部 実施場所：足利市

問合せ先：栃木県農政部経営技術課技術指導班 TEL 028-623-2322 FAX 028-623-2315

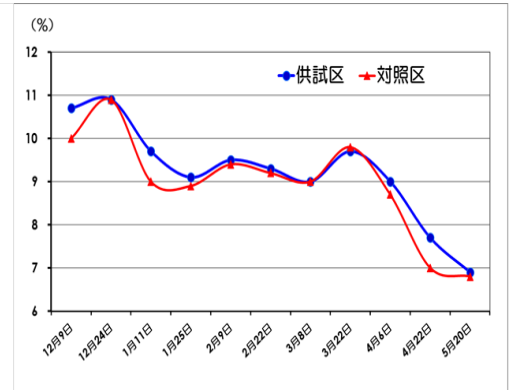


図2 糖度の推移